

土木部発注工事における I C T 活用工事（ I C T 河川浚渫工）の試行要領【受注者希望型】 新旧対照表

| 現 行 | 改 定 |
|---|--|
| <p>土木部発注工事における I C T 活用工事（ I C T 河川浚渫工）の試行要領【受注者希望型】</p> <p>（趣旨）</p> <p>第 1 条 この要領は、土木部が発注する工事において、「 I C T 活用工事（ I C T 河川浚渫工）【受注者希望型】」（以下、「 I C T 河川浚渫工」という。）を試行するために、必要な事項を定めたものである。</p> <p>（ I C T 活用工事）</p> <p>第 2 条 I C T 河川浚渫工とは、以下に示す施工プロセス（①～④）において I C T を活用する工事とする。</p> <p>【施工プロセス】</p> <p>① 3 次元起工測量</p> <p>起工測量において、下記 1）～ 2）の方法により 3 次元測量データを取得するために測量を行うものとする。</p> <p>起工測量にあたっては、標準的に面計測を実施するものとするが、前工事での 3 次元納品データが活用できる場合等においては、管理断面及び変化点の計測による測量を選択してもよい。</p> <p>1）音響測深機器による起工測量</p> <p>2）その他の 3 次元計測技術による起工測量（※）</p> <p>（※）従来の断面管理において T S を用いて測定し、計測点同士をT I Nで結合する方法で断面間を 3 次元的に補完することを含む。</p> <p>② 3 次元設計データ作成</p> <p>発注図書や①で得られたデータを用いて、3 次元出来形管理を行うための 3 次元設計データを作成する。</p> <p>③ I C T 建設機械による施工</p> <p>②で得られた 3 次元設計データまたは施工用に作成した 3 次元データを用いて、下記 1）～ 2）に示す技術（ I C T 建設機械）により施工を実施する。</p> <p>（追加）</p> <p>1） 3 次元マシンコントロール（バックホウ）技術</p> <p>2） 3 次元マシンガイダンス（バックホウ）技術</p> <p>④</p> | <p>土木部発注工事における I C T 活用工事（ I C T 河川浚渫工）の試行要領【受注者希望型】</p> <p>（趣旨）</p> <p>第 1 条 この要領は、土木部が発注する工事において、「 I C T 活用工事（ I C T 河川浚渫工）【受注者希望型】」（以下、「 I C T 河川浚渫工」という。）を試行するために、必要な事項を定めたものである。</p> <p>（ I C T 活用工事）</p> <p>第 2 条 I C T 河川浚渫工とは、以下に示す施工プロセス（①～⑤）において I C T を活用する工事とする。</p> <p>【施工プロセス】</p> <p>① 3 次元起工測量</p> <p>起工測量において、下記 1）～ 2）の方法により 3 次元測量データを取得するために測量を行うものとする。</p> <p>起工測量にあたっては、標準的に面計測を実施するものとするが、前工事での 3 次元納品データが活用できる場合等においては、管理断面及び変化点の計測による測量を選択してもよい。</p> <p>1）音響測深機器による起工測量</p> <p>2）レッド測深等従来手法による起工測量（※）</p> <p>（※）上記 2）による起工測量を実施した場合は、計測点同士を結合し、T I Nデータの作成ができるように測量データを取得するものとする。</p> <p>② 3 次元設計データ作成</p> <p>発注図書や①で得られたデータを用いて、3 次元出来形管理を行うための 3 次元設計データを作成する。</p> <p>なお、発注者が貸与する 3 次元データを活用する場合も、 I C T 活用工事とする。③ I C T 建設機械による施工</p> <p>②で作成した 3 次元設計データを用い、以下 1）に示す I C T 建設機械により施工を実施する。位置・標高をリアルタイムに取得するに当たっては、国土地理院の電子基準点のほか、国土地理院に登録された民間等電子基準点を活用することができる。</p> <p>なお、位置情報サービス事業者が提供する位置情報サービスの利用においては、当該サービスが国家座標に準拠し、かつ、作業規程の準則（令和 7 年 3 月 3 1 日 国土交通省告示第 2 4 0 号）付録 1 測量機器検定基準 2－6 の性能における検定基準を満たすこと。</p> <p>1）3 次元 MC または 3 次元 MG 建設機械 ※MC：「マシンコントロール」の略称、MG：「マシンガイダンス」の略称</p> <p>（削除）</p> <p>建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に</p> |

土木部発注工事におけるＩＣＴ活用工事（ＩＣＴ河川浚渫工）の試行要領【受注者希望型】 新旧対照表

| 現 行 | 改 定 |
|--|---|
| <p>3次元出来形管理資料等の作成</p> <p>③により施工された工事完成物について、ＩＣＴを活用して施工管理を実施する。</p> <p>＜</p> <p>出来形管理＞</p> <p>下記1)～3)のいずれかの技術を用いた出来形管理を行うものとする。</p> <p>1)音響測深機器による出来形管理技術</p> <p>2)施工履歴データによる出来形管理技術</p> <p>3)その他の3次元計測技術による出来形管理技術</p> <p>⑤出来形確認及び検査</p> <p>現地で出来形計測を行い、3次元設計データの設計値と実測値との標高差等が規格値内であるかを検査する。</p> <p>⑥</p> <p>(追加)</p> <p>(追加)</p> <p>納品</p> <p>①～⑤にかかる全てのデータを工事完成図書として納品する。</p> <p>2 ＩＣＴ河川浚渫工の実施にあたり、施工プロセス（①～⑥）のうち生産性向上が見込めるプロセスを選択して実施することができる。施工プロセスの選択にあたっては、協議書の提出時に発注者に提案することとし、受発注者間の協議により決定する。</p> <p>なお、プロセスの選択は、「③ ＩＣＴ建設機械による施工」のみを選択する場合を除き、原則複数のプロセスを選択するものとする。</p> <p>3 総合評価落札方式（施工計画評価型・施工能力評価型）において、加点対象となるのは、第2条に示す全ての施工プロセス（①～⑥）においてＩＣＴを活用する場合に限る。</p> <p>（対象とする工事）</p> <p>第3条 ＩＣＴ河川浚渫工は、下記工種を含む全ての発注工事を対象とする。ただし、ＩＣＴ活用工事（ＩＣＴ河川浚渫工）【発注者指定型】の対象とする工事は除く。</p> <p>1) 浚渫工（バックホウ浚渫船）</p> <p>・浚渫船運転工</p> <p>2 従来施工において、土木工事施工管理基準（出来形管理基準及び規格値）を適用しない工事</p> | <p>基づき建設機械の作業装置を自動制御する3次元マシンコントロール技術または、建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分を表示し、建設機械の作業装置を誘導する3次元マシンガイダンス技術を用いて、河川浚渫を実施する。但し、現場条件により、③ ＩＣＴ建設機械による施工が困難又は非効率となる場合は監督職員との協議の上、従来型建設機械による施工を実施してよいものとする。</p> <p>④ 3次元出来形管理等の施工管理</p> <p>(削除)</p> <p>③による工事の施工管理において、以下の出来形管理を実施する。</p> <p>(1) 出来形管理</p> <p>出来形管理</p> <p>にあたっては、出来形管理</p> <p>図表（ヒートマップ）を作成し、出来形の良否を判定する管理</p> <p>手法（面管理）とし、以下1)にて実施するものとする。なお、面管理とは出来形管理</p> <p>(削除)</p> <p>の計測範囲において、1 m間隔以下（1 点/㎡以上）の点密度が確保できる出来形計測を行い、3次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法のことをいう。</p> <p>1) 音響測深機器を用いた出来形管理</p> <p>なお、以下2)の方法で実施してもＩＣＴ活用工事とする。</p> <p>2) 施工履歴データを用いた出来形管理</p> <p>⑤納品</p> <p>①～④にかかる全てのデータを工事完成図書として納品する。</p> <p>2 ＩＣＴ河川浚渫工の実施にあたり、施工プロセス（①～⑤）のうち生産性向上が見込めるプロセスを選択して実施することができる。施工プロセスの選択にあたっては、協議書の提出時に発注者に提案することとし、受発注者間の協議により決定する。</p> <p>なお、プロセスの選択は、「③ ＩＣＴ建設機械による施工」のみを選択する場合を除き、原則複数のプロセスを選択するものとする。</p> <p>3 総合評価落札方式（施工計画評価型・施工能力評価型）において、加点対象となるのは、第2条に示す全ての施工プロセス（①～⑤）においてＩＣＴを活用する場合に限る。</p> <p>（対象とする工事）</p> <p>第3条 ＩＣＴ河川浚渫工は、下記工種を含む全ての発注工事を対象とする。ただし、ＩＣＴ活用工事（ＩＣＴ河川浚渫工）【発注者指定型】の対象とする工事は除く。</p> <p>1) 浚渫工（バックホウ浚渫船）</p> <p>・浚渫船運転工</p> <p>2 従来施工において、土木工事施工管理基準（出来形管理基準及び規格値）を適用しない工事</p> |

土木部発注工事におけるＩＣＴ活用工事（ＩＣＴ河川浚渫工）の試行要領【受注者希望型】 新旧対照表

| 現 行 | 改 定 | | | | | | | | | | | |
|---|-------------------------------|--|--|-----|---|--|-----|---|--|---|---|--|
| <p>は適用対象外とする。</p> <p>（試行対象工事の調査）</p> <p>第４条 技術企画課は、必要に応じて発注状況等の調査を行い、調査結果をとりまとめることとする。</p> <p>（発注）</p> <p>第５条 発注に当たっての積算基準は、従来の積算基準を用いるものとする。</p> <p>２発注機関は、試行工事の発注に当たり、入札公告にＩＣＴ河川浚渫工であることを明示するとともに、特記仕様書を添付し発注手続きを行うこととする。</p> <p>（ＩＣＴ活用工事の実施手続）</p> <p>第６条 ＩＣＴ河川浚渫工の実施にあたっては、契約書に付された特記仕様書に基づき、受注者が希望した場合、受注者は協議書（ＩＣＴ活用工事計画書）を発注者へ提出し、発注者が協議内容に同意し施工を指示することにより、ＩＣＴ河川浚渫工を実施することができる。</p> <p>２ＩＣＴ河川浚渫工として発注していない工事においても受注者から希望があった場合、発注者は施工量や工期、予算等を考慮の上、受注者希望型と同様の取り扱いとすることができる。</p> <p>（設計変更）</p> <p>第７条 発注者は、ＩＣＴ河川浚渫工の実施を指示した場合、別途定める「土木工事標準積算基準書」に基づき、３次元起工測量・３次元設計データ作成、ＩＣＴ施工および３次元出来形管理にかかる経費を設計変更により計上する。</p> <p>（工事成績）</p> <p>第８条 ＩＣＴ河川浚渫工を第２条に示す全ての施工プロセスで実施した場合は、工事成績の「創意工夫」項目で２点を加点するものとする。</p> <p>なお、施工プロセスを選択し部分的に従来手法で実施した場合は１点を加点するものとする。</p> <p>（追加）</p> <p>（追加）</p> <p>（監督・検査）</p> <p>第９条 ＩＣＴ河川浚渫工を実施した場合の対象工種の監督・検査は、国土交通省が定めた表１「ＩＣＴ河川浚渫工に関する基準」により行うものとする。</p> <table><tr><td colspan="3">表１―ＩＣＴ河川浚渫工に関する基準</td></tr><tr><td>工 施</td><td>１</td><td>３次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）河川浚渫工編</td></tr><tr><td rowspan="2">検 査</td><td>２</td><td>音響測深機器を用いた出来形管理の監督・検査要領（河川浚渫工事編）―（案）―</td></tr><tr><td>３</td><td>施工履歴データを用いた出来形管理の監督・検査要領（河川浚渫工</td></tr></table> | 表１― ＩＣＴ河川浚渫工に関する基準 | | | 工 施 | １ | ３次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）河川浚渫工編 | 検 査 | ２ | 音響測深機器を用いた出来形管理の監督・検査要領（河川浚渫工事編）―（案）― | ３ | 施工履歴データを用いた出来形管理の監督・検査要領（河川浚渫工 | <p>は適用対象外とする。</p> <p>（試行対象工事の調査）</p> <p>第４条 技術企画課は、必要に応じて発注状況等の調査を行い、調査結果をとりまとめることとする。</p> <p>（発注）</p> <p>第５条 発注に当たっての積算基準は、従来の積算基準を用いるものとする。</p> <p>２発注機関は、試行工事の発注に当たり、入札公告にＩＣＴ河川浚渫工であることを明示するとともに、特記仕様書を添付し発注手続きを行うこととする。</p> <p>（ＩＣＴ活用工事の実施手続）</p> <p>第６条 ＩＣＴ河川浚渫工の実施にあたっては、契約書に付された特記仕様書に基づき、受注者が希望した場合、受注者は協議書（ＩＣＴ活用工事計画書）を発注者へ提出し、発注者が協議内容に同意し施工を指示することにより、ＩＣＴ河川浚渫工を実施することができる。</p> <p>２ＩＣＴ河川浚渫工として発注していない工事においても受注者から希望があった場合、発注者は施工量や工期、予算等を考慮の上、受注者希望型と同様の取り扱いとすることができる。</p> <p>（設計変更）</p> <p>第７条 発注者は、ＩＣＴ河川浚渫工の実施を指示した場合、別途定める「土木工事標準積算基準書」に基づき、３次元起工測量・３次元設計データ作成、ＩＣＴ施工および３次元出来形管理にかかる経費を設計変更により計上する。</p> <p>（工事成績）</p> <p>第８条 ＩＣＴ河川浚渫工を第２条に示す全ての施工プロセスで実施した場合は、工事成績の「創意工夫」項目で２点を加点するものとする。</p> <p>なお、施工プロセスを選択し部分的に従来手法で実施した場合は１点を加点するものとする。</p> <p>（アンケート調査）</p> <p>第９条 受注者は、監督員が別途指示するアンケート調査に協力するものとする。</p> <p>（監督・検査）</p> <p>第９条 ＩＣＴ河川浚渫工を実施した場合の対象工種の監督・検査については、以下の国土交通省が定める関連要領等の令和７年１０月１日時点のものを適用するものとする。</p> <p>（削除）</p> |
| 表１― ＩＣＴ河川浚渫工に関する基準 | | | | | | | | | | | | |
| 工 施 | １ | ３次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）河川浚渫工編 | | | | | | | | | | |
| 検 査 | ２ | 音響測深機器を用いた出来形管理の監督・検査要領（河川浚渫工事編）―（案）― | | | | | | | | | | |
| | ３ | 施工履歴データを用いた出来形管理の監督・検査要領（河川浚渫工 | | | | | | | | | | |

土木部発注工事における I C T 活用工事（ I C T 河川浚渫工）の試行要領【受注者希望型】 新旧対照表

| 現 行 | | | 改 定 | |
|--|--|------------|--|--|
| | | 事編)——(案)—— | | |
| (追加) | | | ※関連要領等（要領関係等（ICT の全面的な活用）国土交通省 HP より） https://www.mlit.go.jp/tec/constplan/sosei_constplan_tk_000051.html | |
| 附 則 この要領は、令和元年 9 月 1 日から施行する。 令和 2 年 6 月 22 日改定（令和 2 年 7 月 1 日適用） 令和 3 年 6 月 28 日改定（令和 3 年 7 月 1 日適用） 令和 4 年 9 月 15 日改定（令和 4 年 10 月 1 日適用） 令和 5 年 9 月 26 日改定（令和 5 年 10 月 1 日適用） | | | 附 則 この要領は、令和元年 9 月 1 日から施行する。 令和 2 年 6 月 22 日改定（令和 2 年 7 月 1 日適用） 令和 3 年 6 月 28 日改定（令和 3 年 7 月 1 日適用） 令和 4 年 9 月 15 日改定（令和 4 年 10 月 1 日適用） 令和 5 年 9 月 26 日改定（令和 5 年 10 月 1 日適用） 令和 7 年 9 月 30 日改定（令和 7 年 10 月 1 日適用） | |

土木部発注工事における I C T 活用工事（ I C T 河川浚渫工）の試行要領【発注者指定型】 新旧対照表

| 現 行 | 改 定 |
|---|---|
| <p>土木部発注工事における I C T 活用工事（ I C T 河川浚渫工）の試行要領【発注者指定型】</p> <p>（趣旨）</p> <p>第 1 条 この要領は、土木部が発注する工事において、「 I C T 活用工事（ I C T 河川浚渫工）【発注者指定型】」（以下、「 I C T 河川浚渫工」という。）を試行するために、必要な事項を定めたものである。</p> <p>（ I C T 活用工事）</p> <p>第 2 条 I C T 河川浚渫工とは、以下に示す全ての施工プロセス（①～④）において I C T を活用する工事とする。</p> <p>【施工プロセス】</p> <p>① 3 次元起工測量</p> <p>起工測量において、下記 1）～ 2）の方法により 3 次元測量データを取得するために測量を行うものとする。</p> <p>起工測量にあたっては、標準的に面計測を実施するものとするが、前工事での 3 次元納品データが活用できる場合等においては、管理断面及び変化点の計測による測量を選択してもよい。</p> <p>1）音響測深機器による起工測量</p> <p>2）その他の 3 次元計測技術による起工測量（※）</p> <p>（※）従来の断面管理において T S を用いて測定し、計測点同士をT I Nで結合する方法で断面間を 3 次元的に補完することを含む。</p> <p>② 3 次元設計データ作成</p> <p>発注図書や①で得られたデータを用いて、3 次元出来形管理を行うための 3 次元設計データを作成する。</p> <p>③ I C T 建設機械による施工</p> <p>②で得られた 3 次元設計データまたは施工用に作成した 3 次元データを用いて、下記 1）～ 2）に示す技術（ I C T 建設機械）により施工を実施する。</p> <p>（追加）</p> <p>1） 3 次元マシンコントロール（バックホウ）技術</p> <p>2） 3 次元マシンガイダンス（バックホウ）技術</p> <p>④</p> | <p>土木部発注工事における I C T 活用工事（ I C T 河川浚渫工）の試行要領【発注者指定型】</p> <p>（趣旨）</p> <p>第 1 条 この要領は、土木部が発注する工事において、「 I C T 活用工事（ I C T 河川浚渫工）【発注者指定型】」（以下、「 I C T 河川浚渫工」という。）を試行するために、必要な事項を定めたものである。</p> <p>（ I C T 活用工事）</p> <p>第 2 条 I C T 河川浚渫工とは、以下に示す全ての施工プロセス（①～⑤）において I C T を活用する工事とする。</p> <p>【施工プロセス】</p> <p>① 3 次元起工測量</p> <p>起工測量において、下記 1）～ 2）の方法により 3 次元測量データを取得するために測量を行うものとする。</p> <p>起工測量にあたっては、標準的に面計測を実施するものとするが、前工事での 3 次元納品データが活用できる場合等においては、管理断面及び変化点の計測による測量を選択してもよい。</p> <p>1）音響測深機器による起工測量</p> <p>2）レッド測深等従来手法による起工測量（※）</p> <p>（※）上記 2）による起工測量を実施した場合は、計測点同士を結合し、T I Nデータの作成ができるように測量データを取得するものとする。</p> <p>② 3 次元設計データ作成</p> <p>発注図書や①で得られたデータを用いて、3 次元出来形管理を行うための 3 次元設計データを作成する。なお、発注者が貸与する 3 次元データを活用する場合も、 I C T 活用工事とする。</p> <p>③ I C T 建設機械による施工</p> <p>②で作成した 3 次元設計データを用い、以下 1）に示す I C T 建設機械により施工を実施する。位置・標高をリアルタイムに取得するに当たっては、国土地理院の電子基準点のほか、国土地理院に登録された民間等電子基準点を活用することができる。</p> <p>なお、位置情報サービス事業者が提供する位置情報サービスの利用においては、当該サービスが国家座標に準拠し、かつ、作業規程の準則（令和 7 年 3 月 3 1 日 国土交通省告示第 2 4 0 号）付録 1 測量機器検定基準 2－6 の性能における検定基準を満たすこと。</p> <p>1） 3 次元MCまたは 3 次元MG建設機械 ※MC：「マシンコントロール」の略称、MG：「マシンガイダンス」の略称</p> <p>（削除）</p> <p>建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に</p> |

土木部発注工事における I C T 活用工事（I C T 河川浚渫工）の試行要領【発注者指定型】 新旧対照表

| 現 行 | 改 定 |
|--|---|
| <p>3次元出来形管理資料等の作成</p> <p>③により施工された工事完成物について、I C Tを活用して施工管理を実施する。</p> <p>←</p> <p>出来形管理→</p> <p>下記1)～3)のいずれかの技術を用いた出来形管理を行うものとする。</p> <p>1)音響測深機器による出来形管理技術</p> <p>2)施工履歴データによる出来形管理技術</p> <p>3)その他の3次元計測技術による出来形管理技術</p> <p>⑤出来形確認及び検査</p> <p>現地で出来形計測を行い、3次元設計データの設計値と実測値との標高差等が規格値内であるかを検査する。</p> <p>⑥</p> <p>(追加)</p> <p>(追加)</p> <p>納品</p> <p>①～⑤にかかる全てのデータを工事完成図書として納品する。</p> <p>(対象とする工事)</p> <p>第3条 I C T河川浚渫工の試行対象工事は、設計額 5,000 万円以上かつ、下記工種による浚渫土量 2,000m3 以上の全ての発注工事を対象とする。</p> <p>1) 浚渫工（バックホウ浚渫船）</p> <p>・浚渫船運転工</p> <p>2 従来施工において、土木工事施工管理基準（出来形管理基準及び規格値）を適用しない工事は適用対象外とする。</p> <p>(試行対象工事の調査)</p> <p>第4条 技術企画課は、必要に応じて発注状況等の調査を行い、調査結果をとりまとめることとする。</p> <p>(発注)</p> <p>第5条 発注に当たっての積算基準は、別途定める「土木工事標準積算基準書」により、I C T施工にかかる経費を計上する。</p> <p>2 発注機関は、試行工事の発注に当たり、入札公告に I C T河川浚渫工であることを明示すると</p> | <p>基づき建設機械の作業装置を自動制御する3次元マシンコントロール技術または、建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分を表示し、建設機械の作業装置を誘導する3次元マシンガイダンス技術を用いて、河川浚渫を実施する。但し、現場条件により、③ I C T建設機械による施工が困難又は非効率となる場合は監督職員との協議の上、従来型建設機械による施工を実施してよいものとする。</p> <p>④ 3次元出来形管理等の施工管理</p> <p>(削除)</p> <p>③による工事の施工管理において、以下の出来形管理を実施する。</p> <p>(1) 出来形管理</p> <p>出来形管理</p> <p>にあたっては、出来形管理</p> <p>図表（ヒートマップ）を作成し、出来形の良否を判定する管理</p> <p>手法（面管理）とし、以下1)にて実施するものとする。なお、面管理とは出来形管理</p> <p>(削除)</p> <p>の計測範囲において、1 m間隔以下（1 点/m²以上）の点密度が確保できる出来形計測を行い、3次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法のことをいう。</p> <p>1) 音響測深機器を用いた出来形管理</p> <p>なお、以下2)の方法で実施しても I C T活用工事とする。</p> <p>2) 施工履歴データを用いた出来形管</p> <p>⑤納品</p> <p>①～④にかかる全てのデータを工事完成図書として納品する。</p> <p>(対象とする工事)</p> <p>第3条 I C T河川浚渫工の試行対象工事は、設計額 5,000 万円以上かつ、下記工種による浚渫土量 2,000m3 以上の全ての発注工事を対象とする。</p> <p>1) 浚渫工（バックホウ浚渫船）</p> <p>・浚渫船運転工</p> <p>2 従来施工において、土木工事施工管理基準（出来形管理基準及び規格値）を適用しない工事は適用対象外とする。</p> <p>(試行対象工事の調査)</p> <p>第4条 技術企画課は、必要に応じて発注状況等の調査を行い、調査結果をとりまとめることとする。</p> <p>(発注)</p> <p>第5条 発注に当たっての積算基準は、別途定める「土木工事標準積算基準書」により、I C T施工にかかる経費を計上する。</p> <p>2 発注機関は、試行工事の発注に当たり、入札公告に I C T河川浚渫工であることを明示すると</p> |

土木部発注工事における ICT 活用工事（ICT 河川浚渫工）の試行要領【発注者指定型】 新旧対照表

| 現 行 | 改 定 | | | | | | | | | | | |
|--|-----------------------|--|--|-----|---|---|-----|---|---|---|--|--|
| <p>ともに、特記仕様書を添付し発注手続きを行うこととする。</p> <p>（設計変更）</p> <p>第 6 条 発注者は、別途定める「土木工事標準積算基準書」に基づき、3 次元起工測量・3 次元設計データ作成および 3 次元出来形管理にかかる経費を設計変更により計上する。</p> <p>（工事成績）</p> <p>第 7 条 I C T 河川浚渫工を第 2 条に示す全ての施工プロセスで実施した場合は、工事成績の「創意工夫」項目で 2 点を加点するものとする。</p> <p>（追加）</p> <p>第 8 条</p> <p>（監督・検査）</p> <p>第 9 条 I C T 河川浚渫工を実施した場合の対象工種の監督・検査は、国土交通省が定めた表 1「I C T 河川浚渫工に関する基準」により行うものとする。</p> <table><tr><th colspan="3">表 1—I C T 河川浚渫工に関する基準</th></tr><tr><td>工 施</td><td>1</td><td>3 次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）河川浚渫工編</td></tr><tr><td rowspan="2">検 査</td><td>2</td><td>音響測深機器を用いた出来形管理の監督・検査要領（河川浚渫工事編） —（案）—</td></tr><tr><td>3</td><td>施工履歴データを用いた出来形管理の監督・検査要領（河川浚渫工事編） —（案）—</td></tr></table> <p>（追加）</p> <p>附 則</p> <p>この要領は、平成 30 年 8 月 1 日から施行する。</p> <p>令和元年 8 月 22 日改定（令和元年 9 月 1 日適用）</p> <p>令和 2 年 6 月 22 日改定（令和 2 年 7 月 1 日適用）</p> <p>令和 3 年 6 月 28 日改定（令和 3 年 7 月 1 日適用）</p> <p>令和 4 年 9 月 15 日改定（令和 4 年 10 月 1 日適用）</p> <p>令和 5 年 9 月 26 日改定（令和 5 年 10 月 1 日適用）</p> | 表 1—I C T 河川浚渫工に関する基準 | | | 工 施 | 1 | 3 次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）河川浚渫工編 | 検 査 | 2 | 音響測深機器を用いた出来形管理の監督・検査要領（河川浚渫工事編） —（案）— | 3 | 施工履歴データを用いた出来形管理の監督・検査要領（河川浚渫工事編） —（案）— | <p>ともに、特記仕様書を添付し発注手続きを行うこととする。</p> <p>（設計変更）</p> <p>第 6 条 発注者は、別途定める「土木工事標準積算基準書」に基づき、3 次元起工測量・3 次元設計データ作成および 3 次元出来形管理にかかる経費を設計変更により計上する。</p> <p>（工事成績）</p> <p>第 7 条 I C T 河川浚渫工を第 2 条に示す全ての施工プロセスで実施した場合は、工事成績の「創意工夫」項目で 2 点を加点するものとする。</p> <p>（アンケート調査）</p> <p>第 8 条 受注者は、監督員が別途指示するアンケート調査に協力するものとする。</p> <p>（監督・検査）</p> <p>第 9 条 I C T 河川浚渫工を実施した場合の対象工種の監督・検査については、以下の国土交通省が定める関連要領等の令和 7 年 1 0 月 1 日時点のものを適用するものとする。</p> <p>（削除）</p> <p>※関連要領等（要領関係等（ICT の全面的な活用）国土交通省 HP より） https://www.mlit.go.jp/tec/constplan/sosei_constplan_tk_000051.html</p> <p>附 則</p> <p>この要領は、平成 30 年 8 月 1 日から施行する。</p> <p>令和元年 8 月 22 日改定（令和元年 9 月 1 日適用）</p> <p>令和 2 年 6 月 22 日改定（令和 2 年 7 月 1 日適用）</p> <p>令和 3 年 6 月 28 日改定（令和 3 年 7 月 1 日適用）</p> <p>令和 4 年 9 月 15 日改定（令和 4 年 10 月 1 日適用）</p> <p>令和 5 年 9 月 26 日改定（令和 5 年 10 月 1 日適用）</p> |
| 表 1—I C T 河川浚渫工に関する基準 | | | | | | | | | | | | |
| 工 施 | 1 | 3 次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）河川浚渫工編 | | | | | | | | | | |
| 検 査 | 2 | 音響測深機器を用いた出来形管理の監督・検査要領（河川浚渫工事編） —（案）— | | | | | | | | | | |
| | 3 | 施工履歴データを用いた出来形管理の監督・検査要領（河川浚渫工事編） —（案）— | | | | | | | | | | |

土木部発注工事における I C T 活用工事（ I C T 河川浚渫工）の試行要領【発注者指定型】 新旧対照表

| 現 行 | 改 定 |
|-----|--------------------------------------|
| | 令和 7 年 9 月 30 日改定（令和 7 年 10 月 1 日適用） |

I C T 活用工事（I C T 河川浚渫工）に関する特記仕様書【受注者希望型】 新旧対照表

| 現 行 | 改 定 |
|--|--|
| <p>I C T 活用工事（I C T 河川浚渫工）に関する特記仕様書【受注者希望型】</p> <p>本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T の全面的活用を図るため、受注者発議による提案・協議により、3次元データを活用する「I C T 活用工事（I C T 河川浚渫工）」（以下、「I C T 河川浚渫工」という）である。</p> <p>第 1 I C T 活用工事の推進</p> <p>1－1 I C T 河川浚渫工とは、以下に示す施工プロセス（①～④）において I C T を活用する工事である。</p> <p>【施工プロセス】</p> <p>① 3次元起工測量</p> <p>起工測量において、下記 1）～2）の方法により 3次元測量データを取得するために測量を行うものとする。</p> <p>起工測量にあたっては、標準的に面計測を実施するものとするが、前工事での3次元納品データが活用できる場合等においては、管理断面及び変化点の計測による測量を選択してもよい。なお、その際は監督職員と協議すること。</p> <p>1）音響測深機器による起工測量</p> <p>2）その他の3次元計測技術による起工測量（※）</p> <p>（※）従来の断面管理において T S を用いて測定し、計測点同士を T I N で結合する方法で断面間を3次元的に補完することを含む。</p> <p>② 3次元設計データ作成</p> <p>発注図書や①で得られたデータを用いて、3次元出来形管理を行うための 3次元設計データを作成する。</p> <p>③ I C T 建設機械による施工</p> <p>②で得られた3次元設計データまたは施工用に作成した 3次元データを用いて、下記 1）～2）に示す技術（I C T 建設機械）により施工を実施する。</p> <p>(追加)</p> <p>1）3次元マシンコントロール（バックホウ）技術</p> <p>2）3次元マシンガイダンス（バックホウ）技術</p> <p>④</p> | <p>I C T 活用工事（I C T 河川浚渫工）に関する特記仕様書【受注者希望型】</p> <p>本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T の全面的活用を図るため、受注者発議による提案・協議により、3次元データを活用する「I C T 活用工事（I C T 河川浚渫工）」（以下、「I C T 河川浚渫工」という）である。</p> <p>第 1 I C T 活用工事の推進</p> <p>1－1 I C T 河川浚渫工とは、以下に示す施工プロセス（①～⑤）において I C T を活用する工事である。</p> <p>【施工プロセス】</p> <p>① 3次元起工測量</p> <p>起工測量において、下記 1）～2）の方法により 3次元測量データを取得するために測量を行うものとする。</p> <p>起工測量にあたっては、標準的に面計測を実施するものとするが、前工事での3次元納品データが活用できる場合等においては、管理断面及び変化点の計測による測量を選択してもよい。</p> <p>1）音響測深機器による起工測量</p> <p>2）レッド測深等従来手法による起工測量（※）</p> <p>（※）上記 2）による起工測量を実施した場合は、計測点同士を結合し、T I N データの作成ができるように測量データを取得するものとする。</p> <p>② 3次元設計データ作成</p> <p>発注図書や①で得られたデータを用いて、3次元出来形管理を行うための 3次元設計データを作成する。</p> <p>なお、発注者が貸与する 3次元データを活用する場合も、I C T 活用工事とする。③ I C T 建設機械による施工</p> <p>②で作成した 3次元設計データを用い、以下 1）に示す I C T 建設機械により施工を実施する。位置・標高をリアルタイムに取得するに当たっては、国土地理院の電子基準点のほか、国土地理院に登録された民間等電子基準点を活用することができる。</p> <p>なお、位置情報サービス事業者が提供する位置情報サービスの利用においては、当該サービスが国家座標に準拠し、かつ、作業規程の準則（令和 7 年 3 月 3 1 日 国土交通省告示第 2 4 0 号）付録 1 測量機器検定基準 2－6 の性能における検定基準を満たすこと。</p> <p>1）3次元MCまたは3次元MG建設機械 ※MC：「マシンコントロール」の略称、MG：「マシンガイダンス」の略称</p> <p>(削除)</p> <p>建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する 3次元マシンコントロール技術または、建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分を表示し、</p> |

I C T 活用工事（I C T 河川浚渫工）に関する特記仕様書【受注者希望型】 新旧対照表

| 現 行 | 改 定 |
|--|--|
| <p>3次元出来形管理資料等の作成</p> <p>③により施工された工事完成物について、I C Tを活用して施工管理を実施する。</p> <p>＜出来形管理＞</p> <p>下記1)～2)のいずれかの技術を用いた出来形管理を行うものとする。</p> <p>1) 音響測深機器による出来形管理技術（河川浚渫工）</p> <p>2) 施工履歴データによる出来形管理技術（河川浚渫工）</p> <p>3) その他の3次元計測技術による出来形管理技術（河川浚渫工）</p> <p>⑤出来形確認及び検査</p> <p>現地で出来形計測を行い、3次元設計データの設計値と実測値との標高差等が規格値内であるかを検査する。</p> <p>⑥</p> <p>(追加)</p> <p>(追加)</p> <p>納品</p> <p>①～⑤にかかる全てのデータを工事完成図書として納品する。</p> <p>1－2 受注者はI C T河川浚渫工を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出までにI C T活用工事計画書により、発注者へ提案・協議を行い、協議が整った場合、I C T河川浚渫工を行うことができる。</p> <p>1－3 1－1施工プロセスに示す①～⑥について、測量や施工の実施手段及び対象範囲を監督員と協議するものとする。</p> <p>なお、受注者は施工プロセス（①～⑥）のうち生産性向上が見込めるプロセスを選択して実施することができる。施工プロセスの選択にあたっては、協議書の提出時に発注者に提案することとし、受発注者間の協議により決定すること。プロセスの選択は、「③I C T建設機械による施工」のみを選択する場合を除き、原則複数のプロセスを選択するものとする。</p> <p>1－4 施工を実施するために使用するI C T機器類は、受注者が調達するものとする。</p> <p>1－5 施工に必要なI C T河川浚渫工用のデータは受注者が作成するものとする。</p> <p>1－6 I C T河川浚渫工に伴う経費については、監督員と協議の上、設計変更の対象とする。</p> | <p>建設機械の作業装置を誘導する3次元マシンガイダンス技術を用いて、河川浚渫を実施する。但し、現場条件により、③I C T建設機械による施工が困難又は非効率となる場合は監督職員との協議の上、従来型建設機械による施工を実施してよいものとする。</p> <p>④3次元出来形管理等の施工管理</p> <p>③による工事の施工管理において、以下の出来形管理を実施する。</p> <p>(1) 出来形管理</p> <p>出来形管理にあたっては、出来形管理図表（ヒートマップ）を作成し、出来形の良否を判定する管理手法（面管理）とし、以下1)にて実施するものとする。</p> <p>なお、面管理とは出来形管理</p> <p>(削除)</p> <p>の計測範囲において、1 m間隔以下（1 点/m²以上）の点密度が確保できる出来形計測を行い、3次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法のことをいう。</p> <p>1) 音響測深機器を用いた出来形管理</p> <p>なお、以下2)の方法で実施してもI C T活用工事とする。</p> <p>2) 施工履歴データを用いた出来形管理</p> <p>⑤納品</p> <p>①～④にかかる全てのデータを工事完成図書として納品する。</p> <p>1－2 受注者はI C T河川浚渫工を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出までにI C T活用工事計画書により、発注者へ提案・協議を行い、協議が整った場合、I C T河川浚渫工を行うことができる。</p> <p>1－3 1－1施工プロセスに示す①～⑤について、測量や施工の実施手段及び対象範囲を監督員と協議するものとする。</p> <p>なお、受注者は施工プロセス（①～⑤）のうち生産性向上が見込めるプロセスを選択して実施することができる。施工プロセスの選択にあたっては、協議書の提出時に発注者に提案することとし、受発注者間の協議により決定すること。プロセスの選択は、「③I C T建設機械による施工」のみを選択する場合を除き、原則複数のプロセスを選択するものとする。</p> <p>1－4 施工を実施するために使用するI C T機器類は、受注者が調達するものとする。</p> <p>1－5 施工に必要なI C T河川浚渫工用のデータは受注者が作成するものとする。</p> <p>1－6 I C T河川浚渫工に伴う経費については、監督員と協議の上、設計変更の対象とする。</p> |

I C T活用工事（I C T河川浚渫工）に関する特記仕様書【受注者希望型】 新旧対照表

| 現 行 | 改 定 | | | | | | | | | | | |
|--|---------------------|--------------------------------------|--|-----|---|-----------------------------|-----|---|-------------------------------------|---|--------------------------------------|--|
| <p>1－7 受注者は自らの責任のもと、監督員が貸与する設計図書をもとに3次元設計データを作成のうえ照査するものとする。なお、3次元設計データは、施工や出来形の良否に影響するため、受注者は「3次元設計データチェックシート」を活用し、3次元設計データと設計図書を照合し、入力ミス等がないか照査するものとする。</p> <p>1－8 I C T河川浚渫工を実施した場合は、工事成績の「創意工夫」項目で加点評価する。</p> <p>第2 監督・検査について</p> <p>I C T河川浚渫工を実施した場合の対象工種の監督・検査は、国土交通省が定めた表1「I C T河川浚渫工に関する基準」により行うものとする。</p> <table><tr><td colspan="3">表1—I C T河川浚渫工に関する基準</td></tr><tr><td>工 施</td><td>1</td><td>3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）河川浚渫工編</td></tr><tr><td rowspan="2">検 査</td><td>2</td><td>音響測深機器を用いた出来形管理の監督・検査要領（河川浚渫工事編）（案）</td></tr><tr><td>3</td><td>施工履歴データを用いた出来形管理の監督・検査要領（河川浚渫工事編）（案）</td></tr></table> <p>（追加）</p> <p>（追加）</p> <p>第3 納品について</p> <p>国土交通省が定めた「I C T河川浚渫工に関する基準」において、「ICON」フォルダに格納されることとなっている電子成果品については、「工事完成図書の電子納品に関する運用指針(案)」で示す、「ICON」フォルダに格納することとする。</p> <p>なお、格納するデータについては、圧縮ファイルに変換することとする。</p> <p>第4 アンケート調査について</p> <p>受注者は、監督員が別途指示するアンケート調査に協力するものとする。</p> | 表1—I C T河川浚渫工に関する基準 | | | 工 施 | 1 | 3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）河川浚渫工編 | 検 査 | 2 | 音響測深機器を用いた出来形管理の監督・検査要領（河川浚渫工事編）（案） | 3 | 施工履歴データを用いた出来形管理の監督・検査要領（河川浚渫工事編）（案） | <p>1－7 受注者は自らの責任のもと、監督員が貸与する設計図書をもとに3次元設計データを作成のうえ照査するものとする。なお、3次元設計データは、施工や出来形の良否に影響するため、受注者は「3次元設計データチェックシート」を活用し、3次元設計データと設計図書を照合し、入力ミス等がないか照査するものとする。</p> <p>1－8 I C T河川浚渫工を実施した場合は、工事成績の「創意工夫」項目で加点評価する。</p> <p>第2 監督・検査について</p> <p>I C T河川浚渫工を実施した場合の対象工種の監督・検査の関連要領等については、令和7年10月1日時点のものを適用するものとする。</p> <p>（削除）</p> <p>※関連要領等（要領関係等（ICTの全面的な活用）国土交通省 HP より） https://www.mlit.go.jp/tec/constplan/sosei_constplan_tk_000051.html</p> <p>第3 納品について</p> <p>国土交通省が定めた基準において、「ICON」フォルダに格納されることとなっている電子成果品については、「工事完成図書の電子納品に関する運用指針(案)」で示す、「ICON」フォルダに格納することとする。</p> <p>なお、格納するデータについては、圧縮ファイルに変換することとする。</p> <p>第4 アンケート調査について</p> <p>受注者は、監督員が別途指示するアンケート調査に協力するものとする。</p> |
| 表1—I C T河川浚渫工に関する基準 | | | | | | | | | | | | |
| 工 施 | 1 | 3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）河川浚渫工編 | | | | | | | | | | |
| 検 査 | 2 | 音響測深機器を用いた出来形管理の監督・検査要領（河川浚渫工事編）（案） | | | | | | | | | | |
| | 3 | 施工履歴データを用いた出来形管理の監督・検査要領（河川浚渫工事編）（案） | | | | | | | | | | |

I C T 活用工事（I C T 河川浚渫工）に関する特記仕様書【発注者指定型】 新旧対照表

| 現 行 | 改 定 |
|--|---|
| <p>I C T 活用工事（I C T 河川浚渫工）に関する特記仕様書【発注者指定型】</p> <p>本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T の全面的活用を図るため、3 次元データを活用する「I C T 活用工事（I C T 河川浚渫工）」（以下、「I C T 河川浚渫工」という）である。</p> <p>第 1 I C T 活用工事の推進を図るための措置</p> <p>1－1 I C T 河川浚渫工とは、以下に示す全ての施工プロセス（①～④）において I C T を活用する工事である。</p> <p>【施工プロセス】</p> <p>① 3 次元起工測量</p> <p>起工測量において、下記 1）～ 2）の方法により 3 次元測量データを取得するために測量を行うものとする。</p> <p>起工測量にあたっては、標準的に面計測を実施するものとするが、前工事での 3 次元納品データが活用できる場合等においては、管理断面及び変化点の計測による測量を選択してもよい。なお、その際は監督職員と協議すること。</p> <p>1）音響測深機器による起工測量</p> <p>2）その他の 3 次元計測技術による起工測量（※）</p> <p>—（※）従来の断面管理において T S を用いて測定し、計測点同士を T I N で結合する方法で断面間を 3 次元的に補完することを含む。</p> <p>② 3 次元設計データ作成</p> <p>発注図書や①で得られたデータを用いて、3 次元出来形管理を行うための 3 次元設計データを作成する。</p> <p>③ I C T 建設機械による施工</p> <p>②で得られた 3 次元設計データまたは施工用に作成した 3 次元データを用いて、下記 1）～ 2）に示す技術（I C T 建設機械）により施工を実施する。</p> <p>(追加)</p> <p>1）3 次元マシンコントロール（バックホウ）技術</p> <p>2）3 次元マシンガイダンス（バックホウ）技術</p> <p>④</p> | <p>I C T 活用工事（I C T 河川浚渫工）に関する特記仕様書【発注者指定型】</p> <p>本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T の全面的活用を図るため、3 次元データを活用する「I C T 活用工事（I C T 河川浚渫工）」（以下、「I C T 河川浚渫工」という）である。</p> <p>第 1 I C T 活用工事の推進を図るための措置</p> <p>1－1 I C T 河川浚渫工とは、以下に示す全ての施工プロセス（①～⑤）において I C T を活用する工事である。</p> <p>【施工プロセス】</p> <p>① 3 次元起工測量</p> <p>起工測量において、下記 1）～ 2）の方法により 3 次元測量データを取得するために測量を行うものとする。</p> <p>起工測量にあたっては、標準的に面計測を実施するものとするが、前工事での 3 次元納品データが活用できる場合等においては、管理断面及び変化点の計測による測量を選択してもよい。</p> <p>1）音響測深機器による起工測量</p> <p>2）レッド測深等従来手法による起工測量（※）</p> <p>（※）上記 2）による起工測量を実施した場合は、計測点同士を結合し、T I N データの作成ができるように測量データを取得するものとする。</p> <p>② 3 次元設計データ作成</p> <p>発注図書や①で得られたデータを用いて、3 次元出来形管理を行うための 3 次元設計データを作成する。なお、発注者が貸与する 3 次元データを活用する場合も、I C T 活用工事とする。</p> <p>③ I C T 建設機械による施工</p> <p>②で作成した 3 次元設計データを用い、以下 1）に示す I C T 建設機械により施工を実施する。位置・標高をリアルタイムに取得するに当たっては、国土地理院の電子基準点のほか、国土地理院に登録された民間等電子基準点を活用することができる。</p> <p>なお、位置情報サービス事業者が提供する位置情報サービスの利用においては、当該サービスが国家座標に準拠し、かつ、作業規程の準則（令和 7 年 3 月 3 1 日 国土交通省告示第 2 4 0 号）付録 1 測量機器検定基準 2－6 の性能における検定基準を満たすこと。</p> <p>1）3 次元MCまたは 3 次元MG建設機械 ※MC：「マシンコントロール」の略称、MG：「マシンガイダンス」の略称</p> <p>(削除)</p> <p>建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する 3 次元マシンコントロール技術または、建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分を表示し、</p> |

I C T 活用工事（I C T 河川浚渫工）に関する特記仕様書【発注者指定型】 新旧対照表

| 現 行 | 改 定 |
|--|--|
| <p>3次元出来形管理資料等の作成</p> <p>③により施工された工事完成物について、I C Tを活用して施工管理を実施する。</p> <p>＜出来形管理＞</p> <p>下記1)～2)のいずれかの技術を用いた出来形管理を行うものとする。</p> <p>1) 音響測深機器による出来形管理技術（河川浚渫工）</p> <p>2) 施工履歴データによる出来形管理技術（河川浚渫工）</p> <p>3) その他の3次元計測技術による出来形管理技術（河川浚渫工）</p> <p>⑤出来形確認及び検査</p> <p>現地で出来形計測を行い、3次元設計データの設計値と実測値との標高差等が規格値内であるかを検査する。</p> <p>⑥</p> <p>(追加)</p> <p>(追加)</p> <p>納品</p> <p>①～⑤にかかる全てのデータを工事完成図書として納品する。</p> <p>1－2 1－1 施工プロセスに示す①～④において、測量や施工の実施手段及び対象範囲を平面図等により監督員と協議するものとする。</p> <p>1－3 施工を実施するために使用するI C T機器類は、受注者が調達するものとする。</p> <p>1－4 施工に必要なI C T河川浚渫工用のデータは受注者が作成するものとする。</p> <p>1－5 I C T河川浚渫工に伴う経費については、監督員と協議の上、設計変更の対象とする。</p> <p>1－6 受注者は自らの責任のもと、監督員が貸与する設計図書をもとに3次元設計データを作成のうえ照査するものとする。なお、3次元設計データは、施工や出来形の良否に影響するため、受注者は「3次元設計データチェックシート」を活用し、3次元設計データと設計図書を照合し、入力ミス等がないか照査するものとする。</p> <p>1－7 工事成績の「創意工夫」項目で加点評価する。</p> <p>第2 監督・検査について</p> | <p>建設機械の作業装置を誘導する3次元マシンガイダンス技術を用いて、河川浚渫を実施する。但し、現場条件により、③I C T建設機械による施工が困難又は非効率となる場合は監督職員との協議の上、従来型建設機械による施工を実施してよいものとする。</p> <p>④3次元出来形管理等の施工管理</p> <p>③による工事の施工管理において、以下の出来形管理を実施する。</p> <p>(1) 出来形管理</p> <p>出来形管理にあたっては、出来形管理図表（ヒートマップ）を作成し、出来形の良否を判定する管理手法（面管理）とし、以下1)にて実施するものとする。</p> <p>なお、面管理とは出来形管理</p> <p>(削除)</p> <p>の計測範囲において、1 m間隔以下（1 点/m²以上）の点密度が確保できる出来形計測を行い、3次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法のことをいう。</p> <p>1) 音響測深機器を用いた出来形管理</p> <p>なお、以下2)の方法で実施してもI C T活用工事とする。</p> <p>2) 施工履歴データを用いた出来形管理</p> <p>⑤納品</p> <p>①～④にかかる全てのデータを工事完成図書として納品する。</p> <p>1－2 1－1 施工プロセスに示す①～④において、測量や施工の実施手段及び対象範囲を平面図等により監督員と協議するものとする。</p> <p>1－3 施工を実施するために使用するI C T機器類は、受注者が調達するものとする。</p> <p>1－4 施工に必要なI C T河川浚渫工用のデータは受注者が作成するものとする。</p> <p>1－5 I C T河川浚渫工に伴う経費については、監督員と協議の上、設計変更の対象とする。</p> <p>1－6 受注者は自らの責任のもと、監督員が貸与する設計図書をもとに3次元設計データを作成のうえ照査するものとする。なお、3次元設計データは、施工や出来形の良否に影響するため、受注者は「3次元設計データチェックシート」を活用し、3次元設計データと設計図書を照合し、入力ミス等がないか照査するものとする。</p> <p>1－7 工事成績の「創意工夫」項目で加点評価する。</p> <p>第2 監督・検査について</p> |

I C T活用工事（I C T河川浚渫工）に関する特記仕様書【発注者指定型】 新旧対照表

| 現 行 | | 改 定 | |
|--|---|---|--|
| I C T河川浚渫工を実施した場合の対象工種の監督・検査は、国土交通省が定めた表1「I C T河川浚渫工に関する基準」により行うものとする。 | | I C T河川浚渫工を実施した場合の対象工種の監督・検査の関連要領等については、令和7年10月1日時点のものを適用するものとする。 | |
| 表1—I C T河川浚渫工に関する基準 | | (削除) | |
| 工 施 検 査 | 1 | 3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）河川浚渫工編 | |
| | 2 | 音響測深機器を用いた出来形管理の監督・検査要領（河川浚渫工事編）（案） | |
| | 3 | 施工履歴データを用いた出来形管理の監督・検査要領（河川浚渫工事編）（案） | |
| (追加) | | ※関連要領等（要領関係等（ICTの全面的な活用）国土交通省HPより） | |
| (追加) | | https://www.mlit.go.jp/tec/constplan/sosei_constplan_tk_000051.html | |
| 第3 納品について | | 第3 納品について | |
| 国土交通省が定めた「I C T河川浚渫工に関する基準」において、「ICON」フォルダに格納されることとなっている電子成果品については、「工事完成図書の電子納品に関する運用指針(案)」で示す、「ICON」フォルダに格納することとする。 | | 国土交通省が定めた基準において、「ICON」フォルダに格納されることとなっている電子成果品については、「工事完成図書の電子納品に関する運用指針(案)」で示す、「ICON」フォルダに格納することとする。 | |
| なお、格納するデータについては、圧縮ファイルに変換することとする。 | | なお、格納するデータについては、圧縮ファイルに変換することとする。 | |
| 第4 アンケート調査について | | 第4 アンケート調査について | |
| 受注者は、監督員が別途指示するアンケート調査に協力するものとする。 | | 受注者は、監督員が別途指示するアンケート調査に協力するものとする。 | |
| 第5 現場見学会の実施について | | 第5 現場見学会の実施について | |
| I C T活用工事の推進を目的として、現場見学会を実施する場合、受注者は見学会の開催に協力するものとする。 | | I C T活用工事の推進を目的として、現場見学会を実施する場合、受注者は見学会の開催に協力するものとする。 | |

I C T活用工事計画書 新旧対照表

| 現 行 | | | | 改 定 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|-----------------------------------|--------------|---|-----|--|-------------|------|--------------|----------|-----------------------------------|--|--|---|---|--|--|--|---|------------------------------|--|---|------------------------------|--|--------------------------------|--|--------------------------------|--|--------------------------------|--|-----------------------------------|--|----------------------------------|--|----------------------------------|--|------------------------------|--|------------------------------|--|----------------------------------|--|--|--|------------------------------|--|--|-----------------------------|--|---------------------------|------------------------------|--|--|--|---------------|--|
| <div>平成〇年〇月〇日 工 事 名：〇〇〇〇〇〇工事 受注会社名：〇〇〇建設（株）</div> <div>I C T活用工事計画書</div> <p>当該工事において活用する技術について、「採用する技術番号」欄に該当建設生産プロセスの作業内容ごとに採用する技術番号を記載する。また、建設生産プロセスの各段階において、現場条件により I C Tによる施工が適当でない箇所を除く施工範囲の全てで活用する場合は、左端のチェック欄に「<input checked="" type="checkbox"/>」と記入する。</p> <table><thead><tr><th>建設生産プロセスの段階</th><th>作業内容</th><th>採用する 技術番号</th><th>技術番号・技術名</th></tr></thead><tbody><tr><td><input type="checkbox"/> ①3次元起工測量</td><td></td><td></td><td>1 空中写真測量（無人航空機）による起工測量 2 地上型レーザースキャナーによる起工測量 3 その他の3次元計測技術による起工測量</td></tr><tr><td><input type="checkbox"/> ②3次元設計用 データ作成</td><td></td><td></td><td>※3次元出来形管理に用いる3次元設計データの作成であり、I C T建設機械のみ用いる3次元設計データは含まない。</td></tr><tr><td rowspan="10"><input type="checkbox"/> ③I C T建設機械による 施工 ※当該工事に含まれる右 記作業の全てで活用する 場合に「<input checked="" type="checkbox"/>」と記入</td><td><input type="checkbox"/> 掘削工</td><td></td><td rowspan="10">1 3次元マシンコントロール（ブルドーザ）技術 2 3次元マシンコントロール（バックホウ）技術 3 3次元マシンガイダンス（ブルドーザ）技術 4 3次元マシンガイダンス（バックホウ）技術 5 3次元マシンコントロール（モーターグレーダ）技術 6 3次元位置を用いた施工管理システム</td></tr><tr><td><input type="checkbox"/> 盛土工</td><td></td></tr><tr><td><input type="checkbox"/> 路体盛土工</td><td></td></tr><tr><td><input type="checkbox"/> 路床盛土工</td><td></td></tr><tr><td><input type="checkbox"/> 法面整形工</td><td></td></tr><tr><td><input type="checkbox"/> 作業土工(床版)</td><td></td></tr><tr><td><input type="checkbox"/> 路床安定処理工</td><td></td></tr><tr><td><input type="checkbox"/> 表層安定処理工</td><td></td></tr><tr><td><input type="checkbox"/> 固結工</td><td></td></tr><tr><td><input type="checkbox"/> 路盤工</td><td></td></tr><tr><td><input type="checkbox"/> 切削・パブリ工</td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="2"><input type="checkbox"/> ④3次元出来形管理資料 の作成 ⑤出来形確認及び検査 ※同上</td><td><input type="checkbox"/> 出来形</td><td></td><td>1 空中写真測量（無人航空機）による出来形管理技術 2 地上型レーザースキャナーによる出来形管理技術 3 その他の3次元計測技術による出来形管理技術</td></tr><tr><td><input type="checkbox"/> 品質</td><td></td><td>T S ・ G N S Sによる範囲内回敷管理技術</td></tr><tr><td><input type="checkbox"/> ⑥納品</td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> <p>注1）I C T活用工事の詳細については、特記仕様書によるものとする。</p> | | | | | | 建設生産プロセスの段階 | 作業内容 | 採用する 技術番号 | 技術番号・技術名 | <input type="checkbox"/> ①3次元起工測量 | | | 1 空中写真測量（無人航空機）による起工測量 2 地上型レーザースキャナーによる起工測量 3 その他の3次元計測技術による起工測量 | <input type="checkbox"/> ②3次元設計用 データ作成 | | | ※3次元出来形管理に用いる3次元設計データの作成であり、I C T建設機械のみ用いる3次元設計データは含まない。 | <input type="checkbox"/> ③I C T建設機械による 施工 ※当該工事に含まれる右 記作業の全てで活用する 場合に「 <input checked="" type="checkbox"/> 」と記入 | <input type="checkbox"/> 掘削工 | | 1 3次元マシンコントロール（ブルドーザ）技術 2 3次元マシンコントロール（バックホウ）技術 3 3次元マシンガイダンス（ブルドーザ）技術 4 3次元マシンガイダンス（バックホウ）技術 5 3次元マシンコントロール（モーターグレーダ）技術 6 3次元位置を用いた施工管理システム | <input type="checkbox"/> 盛土工 | | <input type="checkbox"/> 路体盛土工 | | <input type="checkbox"/> 路床盛土工 | | <input type="checkbox"/> 法面整形工 | | <input type="checkbox"/> 作業土工(床版) | | <input type="checkbox"/> 路床安定処理工 | | <input type="checkbox"/> 表層安定処理工 | | <input type="checkbox"/> 固結工 | | <input type="checkbox"/> 路盤工 | | <input type="checkbox"/> 切削・パブリ工 | | | <input type="checkbox"/> ④3次元出来形管理資料 の作成 ⑤出来形確認及び検査 ※同上 | <input type="checkbox"/> 出来形 | | 1 空中写真測量（無人航空機）による出来形管理技術 2 地上型レーザースキャナーによる出来形管理技術 3 その他の3次元計測技術による出来形管理技術 | <input type="checkbox"/> 品質 | | T S ・ G N S Sによる範囲内回敷管理技術 | <input type="checkbox"/> ⑥納品 | | | | <div>削除</div> | |
| 建設生産プロセスの段階 | 作業内容 | 採用する 技術番号 | 技術番号・技術名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> ①3次元起工測量 | | | 1 空中写真測量（無人航空機）による起工測量 2 地上型レーザースキャナーによる起工測量 3 その他の3次元計測技術による起工測量 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> ②3次元設計用 データ作成 | | | ※3次元出来形管理に用いる3次元設計データの作成であり、I C T建設機械のみ用いる3次元設計データは含まない。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> ③I C T建設機械による 施工 ※当該工事に含まれる右 記作業の全てで活用する 場合に「 <input checked="" type="checkbox"/> 」と記入 | <input type="checkbox"/> 掘削工 | | 1 3次元マシンコントロール（ブルドーザ）技術 2 3次元マシンコントロール（バックホウ）技術 3 3次元マシンガイダンス（ブルドーザ）技術 4 3次元マシンガイダンス（バックホウ）技術 5 3次元マシンコントロール（モーターグレーダ）技術 6 3次元位置を用いた施工管理システム | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <input type="checkbox"/> 盛土工 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <input type="checkbox"/> 路体盛土工 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <input type="checkbox"/> 路床盛土工 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <input type="checkbox"/> 法面整形工 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <input type="checkbox"/> 作業土工(床版) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <input type="checkbox"/> 路床安定処理工 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <input type="checkbox"/> 表層安定処理工 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <input type="checkbox"/> 固結工 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <input type="checkbox"/> 路盤工 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> 切削・パブリ工 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> ④3次元出来形管理資料 の作成 ⑤出来形確認及び検査 ※同上 | <input type="checkbox"/> 出来形 | | 1 空中写真測量（無人航空機）による出来形管理技術 2 地上型レーザースキャナーによる出来形管理技術 3 その他の3次元計測技術による出来形管理技術 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <input type="checkbox"/> 品質 | | T S ・ G N S Sによる範囲内回敷管理技術 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> ⑥納品 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

I C T 活用工事計画書 新旧対照表

| 現 行 | 改 定 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|--|----|-----|---|--------------------|---|---------------------|---|-------------------------|---|-----------------------|---|-----------------------|---|---------------------|---|----------------------|---|---------------------------|---|------------------------|
| | <div data-bbox="1637 403 1760 426" style="text-align: right;">(令和7年10月～)</div> <div data-bbox="1341 432 1715 470" style="text-align: center;">ICT活用工事 協議書 一覧表</div> <div data-bbox="1366 477 1691 501" style="text-align: center;">各工種をクリックすると、該当するシートに繋がります</div> <table border="1" data-bbox="1305 526 1760 842"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>工 種</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>土工</td></tr> <tr> <td>2</td><td>舗装工</td></tr> <tr> <td>3</td><td>構築工(鉄筋)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>河川浚渫工</td></tr> <tr> <td>5</td><td>地盤改良工</td></tr> <tr> <td>6</td><td>法面工</td></tr> <tr> <td>7</td><td>構築物工</td></tr> <tr> <td>8</td><td>作業土工(床敷工)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>付帯構築物工</td></tr> </tbody> </table> | 番号 | 工 種 | 1 | 土工 | 2 | 舗装工 | 3 | 構築工(鉄筋) | 4 | 河川浚渫工 | 5 | 地盤改良工 | 6 | 法面工 | 7 | 構築物工 | 8 | 作業土工(床敷工) | 9 | 付帯構築物工 |
| 番号 | 工 種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 土工 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 舗装工 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 構築工(鉄筋) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 河川浚渫工 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 地盤改良工 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 法面工 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 構築物工 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 作業土工(床敷工) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 付帯構築物工 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

I C T活用工事計画書 新旧対照表

[illegible]

ICT活用工事計画書 新旧対照表

| 現 行 | 改 定 | | | | | | | | | | | | |
|--------------|--|-----------|-----------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | <div>（令和5年度用）</div> <div>ICT活用工事 協議書（純装工）</div> <div>（工事名：○○○○工事）</div> <div>（令和5.○○○に92800）</div> <div><p>当該工事に伴って実施する取組について、詳細する取組内容、責任者（488）を以下の作業内容に記述する。</p><p>※取組内容に「システム設計、構築等」を記載する。</p><p>また、その取組内容の作成に当たって、担当者には以下の取組内容で記述する取組内容の取組内容について、</p><p>取組内容に、取組内容の取組内容に記述する。</p></div> <table><tr><th>取組内容の取組内容</th><th>取組内容の取組内容</th></tr><tr><td>1. 取組内容の取組内容</td><td>1. 取組内容の取組内容 2. 取組内容の取組内容 3. 取組内容の取組内容 4. 取組内容の取組内容 5. 取組内容の取組内容</td></tr><tr><td>2. 取組内容の取組内容</td><td>6. 取組内容の取組内容</td></tr><tr><td>3. ICT活用取組内容</td><td>7. 取組内容の取組内容</td></tr><tr><td>4. 取組内容の取組内容</td><td>8. 取組内容の取組内容</td></tr><tr><td>5. 取組内容の取組内容</td><td>9. 取組内容の取組内容</td></tr></table> <div>（令和5年度用）</div> | 取組内容の取組内容 | 取組内容の取組内容 | 1. 取組内容の取組内容 | 1. 取組内容の取組内容 2. 取組内容の取組内容 3. 取組内容の取組内容 4. 取組内容の取組内容 5. 取組内容の取組内容 | 2. 取組内容の取組内容 | 6. 取組内容の取組内容 | 3. ICT活用取組内容 | 7. 取組内容の取組内容 | 4. 取組内容の取組内容 | 8. 取組内容の取組内容 | 5. 取組内容の取組内容 | 9. 取組内容の取組内容 |
| 取組内容の取組内容 | 取組内容の取組内容 | | | | | | | | | | | | |
| 1. 取組内容の取組内容 | 1. 取組内容の取組内容 2. 取組内容の取組内容 3. 取組内容の取組内容 4. 取組内容の取組内容 5. 取組内容の取組内容 | | | | | | | | | | | | |
| 2. 取組内容の取組内容 | 6. 取組内容の取組内容 | | | | | | | | | | | | |
| 3. ICT活用取組内容 | 7. 取組内容の取組内容 | | | | | | | | | | | | |
| 4. 取組内容の取組内容 | 8. 取組内容の取組内容 | | | | | | | | | | | | |
| 5. 取組内容の取組内容 | 9. 取組内容の取組内容 | | | | | | | | | | | | |

I C T活用工事計画書 新旧対照表

| 現 行 | 改 定 | | | | | | | | | | |
|---------|--|----|----|---------|--|---------|--|---------|--|---------|--|
| | <div> <div> (令和5年度用) </div> <div> ICT活用工事 協議書(総装工) </div> <div> (工事名:〇〇〇〇工事) </div> <div> (令和5年度用) </div> <p> 当表上表は、ICT活用工事の概要を記載する。活用する技術番号、係は、既に設置済みのシステム内の作業内容に該当する。係は、既に設置済みのシステム内の作業内容に該当する。係は、既に設置済みのシステム内の作業内容に該当する。 </p> <p> また、本表は、ICT活用工事の概要を記載する。活用する技術番号、係は、既に設置済みのシステム内の作業内容に該当する。係は、既に設置済みのシステム内の作業内容に該当する。係は、既に設置済みのシステム内の作業内容に該当する。 </p> <table> <tr> <th>項目</th><th>内容</th></tr> <tr> <td>1. 工事概要</td><td> <ul style="list-style-type: none"> 1.1 工事概要 1.2 工事概要 1.3 工事概要 </td></tr> <tr> <td>2. 工事概要</td><td> <ul style="list-style-type: none"> 2.1 工事概要 2.2 工事概要 2.3 工事概要 </td></tr> <tr> <td>3. 工事概要</td><td> <ul style="list-style-type: none"> 3.1 工事概要 3.2 工事概要 3.3 工事概要 </td></tr> <tr> <td>4. 工事概要</td><td> <ul style="list-style-type: none"> 4.1 工事概要 4.2 工事概要 4.3 工事概要 </td></tr> </table> <p> (注) 本表は、ICT活用工事の概要を記載する。活用する技術番号、係は、既に設置済みのシステム内の作業内容に該当する。係は、既に設置済みのシステム内の作業内容に該当する。係は、既に設置済みのシステム内の作業内容に該当する。 </p> </div> | 項目 | 内容 | 1. 工事概要 | <ul style="list-style-type: none"> 1.1 工事概要 1.2 工事概要 1.3 工事概要 | 2. 工事概要 | <ul style="list-style-type: none"> 2.1 工事概要 2.2 工事概要 2.3 工事概要 | 3. 工事概要 | <ul style="list-style-type: none"> 3.1 工事概要 3.2 工事概要 3.3 工事概要 | 4. 工事概要 | <ul style="list-style-type: none"> 4.1 工事概要 4.2 工事概要 4.3 工事概要 |
| 項目 | 内容 | | | | | | | | | | |
| 1. 工事概要 | <ul style="list-style-type: none"> 1.1 工事概要 1.2 工事概要 1.3 工事概要 | | | | | | | | | | |
| 2. 工事概要 | <ul style="list-style-type: none"> 2.1 工事概要 2.2 工事概要 2.3 工事概要 | | | | | | | | | | |
| 3. 工事概要 | <ul style="list-style-type: none"> 3.1 工事概要 3.2 工事概要 3.3 工事概要 | | | | | | | | | | |
| 4. 工事概要 | <ul style="list-style-type: none"> 4.1 工事概要 4.2 工事概要 4.3 工事概要 | | | | | | | | | | |

I C T活用工事計画書 新旧対照表

[illegible]

ICT活用工事計画書 新旧対照表

| 現 行 | 改 定 | | | | | | | | | | |
|-----------|---|----------|----------|-----------|---|-----------|----------------------|-----------|----------------------|-----------|---|
| | <div data-bbox="1238 379 1825 1220"> <div data-bbox="1413 408 1675 432">ICT活用工事 協議書(法面工)</div> <div data-bbox="1469 437 1597 456">(工事名:○○○○工事)</div> <div data-bbox="1697 379 1825 395">図号:○○○○</div> <div data-bbox="1697 461 1825 477">会社名:○○○○建設株式会社</div> <p data-bbox="1274 491 1825 544"> 当書は、当社のICT活用工事に関する技術的・経済的・環境的・社会的な事項について、関係する各関係者(法人・個人)との間で、協議・合意を目的として作成されたものである。 本協議書は、関係する各関係者(法人・個人)との間で、協議・合意を目的として作成されたものである。 </p> <table border="1" data-bbox="1238 544 1825 1209"> <thead> <tr> <th data-bbox="1238 544 1400 568">現行計画書の記載</th><th data-bbox="1400 544 1825 568">改定計画書の記載</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1238 568 1400 727">1. 計画書の概要</td><td data-bbox="1400 568 1825 727"> <ul style="list-style-type: none"> 1.1 計画書の概要(法人・個人)を含む協議事項 1.2 計画書の概要(法人・個人)を含む協議事項 1.3 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 1.4 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 1.5 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 1.6 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 1.7 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 1.8 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 1.9 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 1.10 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 </td></tr> <tr> <td data-bbox="1238 727 1400 775">2. 計画書の概要</td><td data-bbox="1400 727 1825 775"> 計画書の概要(法人・個人)を含む協議事項 </td></tr> <tr> <td data-bbox="1238 775 1400 839">3. 計画書の概要</td><td data-bbox="1400 775 1825 839"> 計画書の概要(法人・個人)を含む協議事項 </td></tr> <tr> <td data-bbox="1238 839 1400 1209">4. 計画書の概要</td><td data-bbox="1400 839 1825 1209"> <ul style="list-style-type: none"> 4.1 計画書の概要(法人・個人)を含む協議事項 4.2 計画書の概要(法人・個人)を含む協議事項 4.3 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 4.4 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 4.5 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 4.6 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 4.7 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 4.8 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 4.9 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 4.10 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 </td></tr> </tbody> </table> </div> | 現行計画書の記載 | 改定計画書の記載 | 1. 計画書の概要 | <ul style="list-style-type: none"> 1.1 計画書の概要(法人・個人)を含む協議事項 1.2 計画書の概要(法人・個人)を含む協議事項 1.3 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 1.4 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 1.5 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 1.6 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 1.7 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 1.8 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 1.9 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 1.10 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 | 2. 計画書の概要 | 計画書の概要(法人・個人)を含む協議事項 | 3. 計画書の概要 | 計画書の概要(法人・個人)を含む協議事項 | 4. 計画書の概要 | <ul style="list-style-type: none"> 4.1 計画書の概要(法人・個人)を含む協議事項 4.2 計画書の概要(法人・個人)を含む協議事項 4.3 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 4.4 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 4.5 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 4.6 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 4.7 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 4.8 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 4.9 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 4.10 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 |
| 現行計画書の記載 | 改定計画書の記載 | | | | | | | | | | |
| 1. 計画書の概要 | <ul style="list-style-type: none"> 1.1 計画書の概要(法人・個人)を含む協議事項 1.2 計画書の概要(法人・個人)を含む協議事項 1.3 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 1.4 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 1.5 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 1.6 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 1.7 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 1.8 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 1.9 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 1.10 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 | | | | | | | | | | |
| 2. 計画書の概要 | 計画書の概要(法人・個人)を含む協議事項 | | | | | | | | | | |
| 3. 計画書の概要 | 計画書の概要(法人・個人)を含む協議事項 | | | | | | | | | | |
| 4. 計画書の概要 | <ul style="list-style-type: none"> 4.1 計画書の概要(法人・個人)を含む協議事項 4.2 計画書の概要(法人・個人)を含む協議事項 4.3 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 4.4 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 4.5 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 4.6 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 4.7 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 4.8 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 4.9 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 4.10 法人関係協議事項(法人・個人)を含む協議事項 | | | | | | | | | | |

I C T活用工事計画書 新旧対照表

現 行

改 定

【改訂版(2017)】

ICT活用工事 協議書(構造物工)
(工事名:○○○○工事)

会社名:○○○○建設株式会社

本協定書は、以下の条件に基づき、本協定書に署名した当事者間で締結された。本協定書は、本協定書の締結の日から有効となる。

また、本協定書は、本協定書の締結の日から有効となる。本協定書は、本協定書の締結の日から有効となる。

| 施工要領(施工要領) | 施工要領(施工要領) |
|-----------------|-----------------|
| 1. 施工要領(施工要領) | 1. 施工要領(施工要領) |
| 2. 施工要領(施工要領) | 2. 施工要領(施工要領) |
| 3. 施工要領(施工要領) | 3. 施工要領(施工要領) |
| 4. 施工要領(施工要領) | 4. 施工要領(施工要領) |
| 5. 施工要領(施工要領) | 5. 施工要領(施工要領) |
| 6. 施工要領(施工要領) | 6. 施工要領(施工要領) |
| 7. 施工要領(施工要領) | 7. 施工要領(施工要領) |
| 8. 施工要領(施工要領) | 8. 施工要領(施工要領) |
| 9. 施工要領(施工要領) | 9. 施工要領(施工要領) |
| 10. 施工要領(施工要領) | 10. 施工要領(施工要領) |
| 11. 施工要領(施工要領) | 11. 施工要領(施工要領) |
| 12. 施工要領(施工要領) | 12. 施工要領(施工要領) |
| 13. 施工要領(施工要領) | 13. 施工要領(施工要領) |
| 14. 施工要領(施工要領) | 14. 施工要領(施工要領) |
| 15. 施工要領(施工要領) | 15. 施工要領(施工要領) |
| 16. 施工要領(施工要領) | 16. 施工要領(施工要領) |
| 17. 施工要領(施工要領) | 17. 施工要領(施工要領) |
| 18. 施工要領(施工要領) | 18. 施工要領(施工要領) |
| 19. 施工要領(施工要領) | 19. 施工要領(施工要領) |
| 20. 施工要領(施工要領) | 20. 施工要領(施工要領) |
| 21. 施工要領(施工要領) | 21. 施工要領(施工要領) |
| 22. 施工要領(施工要領) | 22. 施工要領(施工要領) |
| 23. 施工要領(施工要領) | 23. 施工要領(施工要領) |
| 24. 施工要領(施工要領) | 24. 施工要領(施工要領) |
| 25. 施工要領(施工要領) | 25. 施工要領(施工要領) |
| 26. 施工要領(施工要領) | 26. 施工要領(施工要領) |
| 27. 施工要領(施工要領) | 27. 施工要領(施工要領) |
| 28. 施工要領(施工要領) | 28. 施工要領(施工要領) |
| 29. 施工要領(施工要領) | 29. 施工要領(施工要領) |
| 30. 施工要領(施工要領) | 30. 施工要領(施工要領) |
| 31. 施工要領(施工要領) | 31. 施工要領(施工要領) |
| 32. 施工要領(施工要領) | 32. 施工要領(施工要領) |
| 33. 施工要領(施工要領) | 33. 施工要領(施工要領) |
| 34. 施工要領(施工要領) | 34. 施工要領(施工要領) |
| 35. 施工要領(施工要領) | 35. 施工要領(施工要領) |
| 36. 施工要領(施工要領) | 36. 施工要領(施工要領) |
| 37. 施工要領(施工要領) | 37. 施工要領(施工要領) |
| 38. 施工要領(施工要領) | 38. 施工要領(施工要領) |
| 39. 施工要領(施工要領) | 39. 施工要領(施工要領) |
| 40. 施工要領(施工要領) | 40. 施工要領(施工要領) |
| 41. 施工要領(施工要領) | 41. 施工要領(施工要領) |
| 42. 施工要領(施工要領) | 42. 施工要領(施工要領) |
| 43. 施工要領(施工要領) | 43. 施工要領(施工要領) |
| 44. 施工要領(施工要領) | 44. 施工要領(施工要領) |
| 45. 施工要領(施工要領) | 45. 施工要領(施工要領) |
| 46. 施工要領(施工要領) | 46. 施工要領(施工要領) |
| 47. 施工要領(施工要領) | 47. 施工要領(施工要領) |
| 48. 施工要領(施工要領) | 48. 施工要領(施工要領) |
| 49. 施工要領(施工要領) | 49. 施工要領(施工要領) |
| 50. 施工要領(施工要領) | 50. 施工要領(施工要領) |
| 51. 施工要領(施工要領) | 51. 施工要領(施工要領) |
| 52. 施工要領(施工要領) | 52. 施工要領(施工要領) |
| 53. 施工要領(施工要領) | 53. 施工要領(施工要領) |
| 54. 施工要領(施工要領) | 54. 施工要領(施工要領) |
| 55. 施工要領(施工要領) | 55. 施工要領(施工要領) |
| 56. 施工要領(施工要領) | 56. 施工要領(施工要領) |
| 57. 施工要領(施工要領) | 57. 施工要領(施工要領) |
| 58. 施工要領(施工要領) | 58. 施工要領(施工要領) |
| 59. 施工要領(施工要領) | 59. 施工要領(施工要領) |
| 60. 施工要領(施工要領) | 60. 施工要領(施工要領) |
| 61. 施工要領(施工要領) | 61. 施工要領(施工要領) |
| 62. 施工要領(施工要領) | 62. 施工要領(施工要領) |
| 63. 施工要領(施工要領) | 63. 施工要領(施工要領) |
| 64. 施工要領(施工要領) | 64. 施工要領(施工要領) |
| 65. 施工要領(施工要領) | 65. 施工要領(施工要領) |
| 66. 施工要領(施工要領) | 66. 施工要領(施工要領) |
| 67. 施工要領(施工要領) | 67. 施工要領(施工要領) |
| 68. 施工要領(施工要領) | 68. 施工要領(施工要領) |
| 69. 施工要領(施工要領) | 69. 施工要領(施工要領) |
| 70. 施工要領(施工要領) | 70. 施工要領(施工要領) |
| 71. 施工要領(施工要領) | 71. 施工要領(施工要領) |
| 72. 施工要領(施工要領) | 72. 施工要領(施工要領) |
| 73. 施工要領(施工要領) | 73. 施工要領(施工要領) |
| 74. 施工要領(施工要領) | 74. 施工要領(施工要領) |
| 75. 施工要領(施工要領) | 75. 施工要領(施工要領) |
| 76. 施工要領(施工要領) | 76. 施工要領(施工要領) |
| 77. 施工要領(施工要領) | 77. 施工要領(施工要領) |
| 78. 施工要領(施工要領) | 78. 施工要領(施工要領) |
| 79. 施工要領(施工要領) | 79. 施工要領(施工要領) |
| 80. 施工要領(施工要領) | 80. 施工要領(施工要領) |
| 81. 施工要領(施工要領) | 81. 施工要領(施工要領) |
| 82. 施工要領(施工要領) | 82. 施工要領(施工要領) |
| 83. 施工要領(施工要領) | 83. 施工要領(施工要領) |
| 84. 施工要領(施工要領) | 84. 施工要領(施工要領) |
| 85. 施工要領(施工要領) | 85. 施工要領(施工要領) |
| 86. 施工要領(施工要領) | 86. 施工要領(施工要領) |
| 87. 施工要領(施工要領) | 87. 施工要領(施工要領) |
| 88. 施工要領(施工要領) | 88. 施工要領(施工要領) |
| 89. 施工要領(施工要領) | 89. 施工要領(施工要領) |
| 90. 施工要領(施工要領) | 90. 施工要領(施工要領) |
| 91. 施工要領(施工要領) | 91. 施工要領(施工要領) |
| 92. 施工要領(施工要領) | 92. 施工要領(施工要領) |
| 93. 施工要領(施工要領) | 93. 施工要領(施工要領) |
| 94. 施工要領(施工要領) | 94. 施工要領(施工要領) |
| 95. 施工要領(施工要領) | 95. 施工要領(施工要領) |
| 96. 施工要領(施工要領) | 96. 施工要領(施工要領) |
| 97. 施工要領(施工要領) | 97. 施工要領(施工要領) |
| 98. 施工要領(施工要領) | 98. 施工要領(施工要領) |
| 99. 施工要領(施工要領) | 99. 施工要領(施工要領) |
| 100. 施工要領(施工要領) | 100. 施工要領(施工要領) |

注1: 施工要領(施工要領)は、施工要領(施工要領)の施工要領(施工

I C T活用工事計画書 新旧対照表

[illegible]

ICT活用工事計画書 新旧対照表

[illegible]

I C T活用工事計画書 新旧対照表

| 現 行 | | | | 改 定 |
|-------------------|-----|---|------------|---------------|
| 様式－1 ① | | | | |
| (空中写真測量（無人航空機）) | | | | |
| 令和〇年〇月〇日 | | | | |
| 工 事 名：〇〇〇〇〇〇工事 | | | | |
| 受注会社名：〇〇〇建設（株） | | | | |
| 3次元設計データチェックシート | | | | |
| 項目 | 対象 | 内容 | チェック 結果 | |
| 1) 基準点及び 工事基準点 | 全点 | 監督員の指示した基準点を使用しているか？ | | <div>削除</div> |
| | | 工事基準点の名称は正しいか？ | | |
| | | 座標は正しいか？ | | |
| 2) 平面線形 | 全延長 | 起終点の座標は正しいか？ | | |
| | | 変化点（線形主要点）の座標は正しいか？ | | |
| | | 曲線要素の種別・数値は正しいか？ | | |
| | | 各測点の座標は正しいか？ | | |
| 3) 縦断線形 | 全延長 | 線形起終点の測点、標高は正しいか？ | | |
| | | 縦断変化点の測点、標高は正しいか？ | | |
| | | 曲線要素は正しいか？ | | |
| 4) 出来形横断面 形状 | 全延長 | 作成した出来形横断面形状の測点、数は適切 か？ | | |
| | | 基準高、幅、法長は正しいか？ | | |
| 5) 3次元 設計データ | 全延長 | 入力した2)～4)の幾何学形状と出力する 3次元設計データは同一となっているか？ | | |

ICT活用工事計画書 新旧対照表

| 現 行 | | 改 定 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-----|---|------------|-----|------------|-------------------|----|----------------------|--|----------------|--|----------|--|---------|-----|--------------|--|---------------------|--|------------------|--|--------------|--|---------|-----|-------------------|--|-------------------|--|------------|--|-----------------|-----|----------------------------|--|----------------|--|------------------------------|--|-----------------|-----|---|--|---------------|--|
| 様式－1② (レーザースキャナー) <div>令和〇年〇月〇日 工 事 名：〇〇〇〇〇〇工事 受注会社名：〇〇〇建設（株）</div> 3次元設計データチェックシート <table><tr><th>項目</th><th>対象</th><th>内 容</th><th>チェック 結果</th></tr><tr><td rowspan="3">1) 基準点及び 工事基準点</td><td rowspan="3">全点</td><td>監督員の指示した基準点を使用しているか？</td><td></td></tr><tr><td>工事基準点の名称は正しいか？</td><td></td></tr><tr><td>座標は正しいか？</td><td></td></tr><tr><td rowspan="4">2) 平面線形</td><td rowspan="4">全延長</td><td>起終点の座標は正しいか？</td><td></td></tr><tr><td>変化点（線形主要点）の座標は正しいか？</td><td></td></tr><tr><td>曲線要素の種別・数値は正しいか？</td><td></td></tr><tr><td>各測点の座標は正しいか？</td><td></td></tr><tr><td rowspan="3">3) 縦断線形</td><td rowspan="3">全延長</td><td>線形起終点の測点、標高は正しいか？</td><td></td></tr><tr><td>縦断変化点の測点、標高は正しいか？</td><td></td></tr><tr><td>曲線要素は正しいか？</td><td></td></tr><tr><td rowspan="3">4) 出来形横断面 形状</td><td rowspan="3">全延長</td><td>作成した出来形横断面形状の測点、数は適切 か？</td><td></td></tr><tr><td>基準高、幅、法長は正しいか？</td><td></td></tr><tr><td>出来形計測対象点の記号が正しく付与できて いるか？</td><td></td></tr><tr><td>5) 3次元 設計データ</td><td>全延長</td><td>入力した2)～4)の幾何学形状と出力する 3次元設計データは同一となっているか？</td><td></td></tr></table> | | 項目 | 対象 | 内 容 | チェック 結果 | 1) 基準点及び 工事基準点 | 全点 | 監督員の指示した基準点を使用しているか？ | | 工事基準点の名称は正しいか？ | | 座標は正しいか？ | | 2) 平面線形 | 全延長 | 起終点の座標は正しいか？ | | 変化点（線形主要点）の座標は正しいか？ | | 曲線要素の種別・数値は正しいか？ | | 各測点の座標は正しいか？ | | 3) 縦断線形 | 全延長 | 線形起終点の測点、標高は正しいか？ | | 縦断変化点の測点、標高は正しいか？ | | 曲線要素は正しいか？ | | 4) 出来形横断面 形状 | 全延長 | 作成した出来形横断面形状の測点、数は適切 か？ | | 基準高、幅、法長は正しいか？ | | 出来形計測対象点の記号が正しく付与できて いるか？ | | 5) 3次元 設計データ | 全延長 | 入力した2)～4)の幾何学形状と出力する 3次元設計データは同一となっているか？ | | <div>削除</div> | |
| 項目 | 対象 | 内 容 | チェック 結果 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1) 基準点及び 工事基準点 | 全点 | 監督員の指示した基準点を使用しているか？ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 工事基準点の名称は正しいか？ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 座標は正しいか？ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2) 平面線形 | 全延長 | 起終点の座標は正しいか？ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 変化点（線形主要点）の座標は正しいか？ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 曲線要素の種別・数値は正しいか？ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 各測点の座標は正しいか？ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3) 縦断線形 | 全延長 | 線形起終点の測点、標高は正しいか？ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 縦断変化点の測点、標高は正しいか？ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 曲線要素は正しいか？ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4) 出来形横断面 形状 | 全延長 | 作成した出来形横断面形状の測点、数は適切 か？ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 基準高、幅、法長は正しいか？ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 出来形計測対象点の記号が正しく付与できて いるか？ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5) 3次元 設計データ | 全延長 | 入力した2)～4)の幾何学形状と出力する 3次元設計データは同一となっているか？ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

I C T活用工事計画書 新旧対照表

| 現 行 | 改 定 |
|-----|---|
| | <p>参考資料</p> <p>設計データチェックシート</p> <p> 参考資料 1 3次元設計データチェックシート (Type A) 1 参考資料 2 3次元設計データチェックシート (Type-B) 2 参考資料 3 3次元設計データチェックシート (Type-C) 3 参考資料 4 3次元設計データチェックシート (Type-D) 4 参考資料 5 3次元設計データチェックシート (Type-E) 5 参考資料 6 3次元設計データチェックシート (Type-F) 6 参考資料 7 基本設計データチェックシート (Type-A) 7 参考資料 8 基本設計データチェックシート (Type-B) 8 参考資料 9 建築改良設計データチェックシート (Type-A) 9 参考資料 10 建築改良設計データチェックシート (Type-B) 10 参考資料 11 内装工設計データチェックシート 11 参考資料 12 ジョイント設計データチェックシート 12 </p> |

I C T活用工事計画書 新旧対照表

[illegible]

I C T活用工事計画書 新旧対照表

現 行

改 定

参考資料-1 3次元設計データチェックシート【Type-A】

(様式)

令和〇〇年〇〇月〇〇日

工 事 名:

受 注 者 名:

作 成 者:

S1

3次元設計データチェックシート

| 項目 | 対象 | 内容 | チェック結果 |
|---------------|-----|--|--------|
| 1) 所準と及び工事基準品 | 全点 | <ul style="list-style-type: none"> ・式安棚口の指定した基準品を引用しているか？ ・工事基準品の名称は正しいか？ ・定数は正しいか？ ・取付金具の仕様は正しいか？ | |
| 2) 平面図形 | 全延長 | <ul style="list-style-type: none"> ・変位点（橋脚・気筒）の四角は正しいか？ ・道路電線の位置・気筒は正しいか？ ・各測点の距離は正しいか？ | |
| 3) 縦断図形 | 全延長 | <ul style="list-style-type: none"> ・路肩・路床の位置、標高は正しいか？ ・路面変位点の位置、標高は正しいか？ ・路面変位は正しいか？ | |
| 4) 出土形断面図 | 全延長 | <ul style="list-style-type: none"> ・作成した山・谷断面図の断面、数は正しいか？ ・尺・標高、四、五、六は正しいか？ | |
| 5) 3次元設計データ | 全延長 | <ul style="list-style-type: none"> ・入力した2)～4)の図面形式と出力する3次元設計データは同一となっているか？ | |

※1 各チェック項目について、チェック結果欄に“○”を記すこと。

※2 該当項目のデータ入力がない場合は、チェック結果欄に“－”を記すこと。

2

I C T活用工事計画書 新旧対照表

現 行

改 定

参考資料 2 3次元設計データチェックシート (Type B)

(様式)

令和〇〇年〇〇月〇〇日

工 事 名:

受 注 者 名:

作 成 者 名:

係

3次元設計データチェックシート

| 項目 | 対象 | 内容 | チェック 結果 |
|--------------------|-----|--|------------|
| 1) 所収内容及び 工事完成品 | 全図 | <ul style="list-style-type: none"> ・雪割図等の指示した基準を使用しているか? ・工事完成品の内容は正しいか? ・押込に正しいか? | |
| 2) 平面図形 | 全図面 | <ul style="list-style-type: none"> ・配筋図 (鉄筋主筋等) の押込位置は正しいか? ・自設仮設の確保・設備に正しいか? ・基礎等の形状は正しいか? | |
| 3) 縦断図形 | 全図面 | <ul style="list-style-type: none"> ・縦断図は正しいか? 標高は正しいか? ・自設仮設は正しいか? | |
| 4) 土木測量図 図形 | 全図面 | <ul style="list-style-type: none"> ・与えた測量図は正確な図面、図は正しいか? ・他、決まっているか? | |
| 5) 3次元設計 データ | 全図面 | <ul style="list-style-type: none"> ・入力した2)～4)の各図面と、1)とする3次元設計データは同一となっているか? | |

※1 各チェック項目について、チェック結果欄に“○”と記すこと。

※2 該当項目のデータ入力が無い場合は、チェック結果欄に“/”と記すこと。

2

I C T活用工事計画書 新旧対照表

現 行

改 定

参考資料 3 3次元設計データチェックシート [Type G]

(様式)

令和〇〇年〇〇月〇〇日

上 学 名:

学 校 名:

作 成 者:

印

3次元設計データチェックシート

| 項目 | 対象 | 内容 | データ品質 |
|--------------|----|---|-------|
| 1) 断面図及び平面図等 | 全図 | ・断面図等の描画した基準点を使用しているか？ ・工事現場での実測値と一致しているか？ ・図面に正しいか？ | |
| 2) 平面図等 | 全図 | ・点群データの精度は正しいか？ ・変位点（誤差）の範囲は正しいか？ ・変位点の範囲・誤差は正しいか？ ・変位点の範囲は正しいか？ | |
| 3) 断面図等 | 全図 | ・断面図等の精度、変位は正しいか？ ・断面図等の精度、変位は正しいか？ ・断面図等の精度、変位は正しいか？ | |
| 4) 断面図等の図面 | 全図 | ・作成した断面図等の精度、変位は正しいか？ ・断面図、図、変位などの精度は正しいか？ | |
| 5) 3次元設計データ | 全図 | ・入力した2次元の図面、図面と変位する3次元設計データは正しいか？ | |

※1 各チェック項目について、チェック結果は「○」と記すこと。

※2 図面等のデータ入力精度は、チェック結果欄に「○」と記すこと。

3

I C T活用工事計画書 新旧対照表

現 行

改 定

参考資料-5 3次元設計データチェックシート [Type-C]

(様式)

令和〇〇年〇〇月〇〇日

上 査 者: _____
受 注 者 名: _____
作 成 者: _____ 印

3次元設計データチェックシート

| 項目 | 対象 | 内容 | チェック 結果 |
|--------------------|-----|--|------------|
| 1) 基準点及び 上り位置関係 | 重点 | ・既設位置が指定した断面図を反映しているか？ | |
| | | ・工区断面図の名称は正しいか？ | |
| | | ・直線は正しいか？ | |
| | | ・曲線曲率半径は正しいか？ | |
| 9) 断面図 | 全線長 | ・変位量(軌形位置)の対応は正しいか？ | |
| | | ・重量表示の正しい・数値は正しいか？ | |
| | | ・各断面の選定は正しいか？ | |
| 8) 断面図 | 全線長 | ・橋脚位置(0)間隔、標高は正しいか？ | |
| | | ・使用位置の間隔、標高は正しいか？ | |
| | | ・非設置位置は正しいか？ | |
| 4) 土木部断面 図 | 全線長 | ・指定した断面図(0)間隔、標高は正しいか？ | |
| 6) 3次元設計 データ | 全線長 | ・入力した(1)～(1)の断面図(0)間隔する3次元設計データは同一となっているか？ | |

※1 各チェックが完了して、チェック結果は“○”と記すこと。

※2 該当のデータのデータ入力がない場合は、チェック結果欄に“－”と記すこと。

5

I C T活用工事計画書 新旧対照表

現 行

改 定

参考資料-6 3次元設計データチェックシート [Type-F]

(様式)

令和〇〇年〇〇月〇〇日

工 事 名:

受 注 者 名:

作 成 者:

印

3次元設計データチェックシート

| 項目 | 対象 | 内容 | チェック結果 |
|---------------|-----|---|--------|
| 1) 標準式及び1次元要素 | 全点 | <ul style="list-style-type: none"> ・監督製図の印入した標準が全採用しているか? ・工事標準点の名称は正しいか? ・2次元は正しいか? | |
| 2) 平面図形 | 全図長 | <ul style="list-style-type: none"> ・軌跡点の座標は正しいか? ・変位量 (変形・変位) の座標は正しいか? ・主線要素の長さ・角度は正しいか? ・各測点の座標は正しいか? ・軌跡開始点の座標、角度は正しいか? | |
| 3) 断面図形 | 全延長 | <ul style="list-style-type: none"> ・軌跡止点の座標、角度は正しいか? | |
| 4) 川床断面形状図式 | 全延長 | <ul style="list-style-type: none"> ・主線要素は正しいか? ・作成した断面形状断面図の補画、取は違いか? ・断面図、幅、距離は正しいか? ・断面方向を示す起終点の座標は正しいか? | |
| 5) 断面図形 | 全点 | <ul style="list-style-type: none"> ・角度は正しいか? | |
| 6) 3次元設計データ | 全図長 | <ul style="list-style-type: none"> ・入力したデータ (点) の入力が結果が出来形と異ならないか? ・入力したデータはデータとなっているか? ・データ全体との相違関係はないか? | |

※1) このチェック項目について、チェック結果欄に“○”と記すこと。

※2) 該当項目のデータ入力がない場合は、チェック結果欄に“*”と記すこと。

8

I C T活用工事計画書 新旧対照表

現 行

改 定

参考資料 7 基本設計データチェックシート [Type-A]

(様式)

令和〇〇年〇〇月〇〇日

工 事 名 :

受 注 者 名 :

作 成 者 :

57

基本設計データチェックシート

| 項目 | 主 要 | 内 容 | チェック 結果 |
|------------------|-----|---|------------|
| 1) 協議内容 上市基準書 | 全点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 恣意性のある指定基準値を指定しているか？ ・ 工事条件の整備は正しいか？ ・ 仕様は正しいか？ ・ 規格品の仕様は正しいか？ | |
| 2) 平面図 | 全図長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 変位量（橋脚・蓋板）の指定は正しいか？ ・ 橋脚位置の指定・設定は正しいか？ ・ 全断面の仕様は正しいか？ | |
| 3) 縦断面 | 全図長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 縦断面の指定・設定は正しいか？ ・ 縦断面位置の指定・設定は正しいか？ ・ 断面形状は正しいか？ | |
| 4) 断面形状図 断面 | 全断面 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 作成した断面の断面形状の指定・設定は正しいか？ ・ 断面形状、断面位置は正しいか？ ・ 断面形状指定の指定・設定は正しいか？ | |

※1 各チェック項目について、チェック結果欄に“○”と記すこと。

※2 該当項目のデータ入力がない場合は、チェック結果欄に“○”と記すこと。

7

I C T活用工事計画書 新旧対照表

現 行

改 定

参考資料-8 基本設計データチェックシート [Type-B]

(様式)

令和〇〇年〇〇月〇〇日

工 事 名:

受 注 者 名:

作 成 者:

印

基本設計データチェックシート

| 項 目 | 対象 | 検 査 内 容 | チェック結果 |
|--------------|-----|---|--------|
| 1) 図書及び工事記号等 | 全点 | ・図面用紙の指定した品番を引用しているか？ ・工事記号等の引用は正しいか？ ・誤記はないか？ | |
| 2) 平面図形 | 全図面 | ・地盤面の描図は正しいか？ ・変位点（計画変位点）の位置は正しいか？ ・断面変更の範囲・数値は正しいか？ ・各断面の図形は正しいか？ ・断面転写品の存在、誤記は正しいか？ | |
| 3) 縦断図形 | 全延長 | ・縦断変位点の位置、標高は正しいか？ ・断面変位は正しいか？ | |
| 4) 断面形・断面変換表 | 全図面 | ・作成した断面形・断面変換表の調査、数値は正しいか？ ・幅・断面高は正しいか？ ・断面形・断面変換表の位置が正しく付添されているか？ | |

※1 各チェック項目について、チェック結果欄に“○”を記入した。

※2 該当項目のデータが短い場合は、チェック結果欄に“○”を記入した。

8

I C T活用工事計画書 新旧対照表

現 行

改 定

参考資料-9 地盤改良設計データチェックシート〔Type-A〕

(様式)

令和〇〇年〇〇月〇〇日

工 事 名:

受 注 者 名:

作 成 者:

印

地盤改良設計データチェックシート

| 項目 | 対象 | 内容 | チェック結果 |
|--------|----|--|--------|
| 1) 平面図 | 全点 | ・地盤改良工事範囲は正しいか？ ・区画図・等圧グラフの図付けは正しいか？ ・管径・ブロックの径・間引き・間隔は正しいか？ | |
| 2) 断面図 | 全点 | ・全ての区画間の間隔（間）又は間隔（間）に正しいか？ | |

※1 各チェック項目について、チェック結果欄に“○”を記入する。

※2 該当項目のデータが入力がない場合は、チェック結果欄に“△”を記入する。

9

I C T活用工事計画書 新旧対照表

現 行

改 定

参考資料-10 地盤改良設計データチェックシート〔Type-B〕

（様式）

令和〇〇年〇〇月〇〇日
工 事 名：
受 注 者 名：
作 成 者：

地盤改良設計データチェックシート

| 項目 | 内容 | チェック 結果 |
|--------|--|------------|
| 1) 計画図 | ・改良位置（x座標、y座標）（掘削位置が多数の場合は複数）は正しいか？ | |
| 2) 断面図 | ・改良体断面の位置で掘削位置からの計画断面・改良体断面との高低差は計画値に正しいか？ ・掘削位置の標高は正しいか？ | |
| 3) 仕様書 | ・設計データに入力した掘削径は、設計仕様書と合致しているか？（0.4mm の場合） ・設計データに入力した掘削径は、設計仕様書と合致しているか？（セグドコンパクションパイル工の場合） | |

※1 各チェック項目について、チェック結果欄に“○”を記入すること。

※2 該当項目のデータ入力がない場合は、チェック結果欄に“－”を記入すること。

29

